

教育の内部質保証に関する自己点検・評価の結果等について

2025 年 7 月 3 日

公立大学法人会津大学

「会津大学における教育の内部質保証に関する方針（2024 年 4 月 18 日付）」に基づき、教育の内部質保証に関する自己点検・評価の結果等について、以下のとおり報告します。

1. 3 ポリシー等の策定・周知・公開

- 「自立した技術者像」や 3 ポリシー（アドミッションポリシー（AP）、ディプロマポリシー（DP）及びカリキュラムポリシー（CP））、学習・教育到達目標については、適切に設定・公開している。また、2023 年度に日本技術者教育認定機構（JABEE）において同機構の基準を満たしているものと認定された「国際技術者育成プログラム」について、24 年度には学生の理解を深めるため、新入生ガイダンス等において教員主導による詳細説明を行ったほか、教育の質の向上に役立てるため、学生からの意見・要請を聴取する取組みとして学長・学生座談会を実施した。
- 2025 年度に向けては、全学的な教学マネジメント（3 ポリシーに基づく教育の質保証）の体制構築を喫緊の課題として取り組む。あわせて、DP や学習・教育到達目標の周知及び理解促進を目的として、学生向けのガイダンスをさらに強化するとともに、既存教員への周知徹底、新任教員や非常勤教員向けの研修の仕組みを充実化させる。また、社会からの要請や卒業生の活動の状況を把握し、3 ポリシーに適切に反映するとともに、教育の社会的有効性を継続的に確認するため、企業・地域等からの意見聴取等について検討する。さらに、中期計画に基づき、3 ポリシーの点検・評価及び見直しを確実に実施し、必要に応じて「学習・教育到達目標」や「自立した技術者像」の改定、DP の再整理を行う。

2. 3 ポリシー等を踏まえた教育の実施

- カリキュラムが到達目標を満たす設計になっていること及び SR（基本推奨）科目が JABEE の基準を満たしていることを確認した。「シラバスと実際の教育内容の整合性」についても授業評価アンケートの項目を新設し、これを確認する仕組みを整えた。
- 今後は、CP と学習・教育到達目標の関係整理、コンピュータサイエンス分野の最新カリキュラム基準（CS2023）への準拠を確認していくとともに、シラバスの品質管理、CAP 制（履修単位制限）の妥当性の再評価等に取り組む。また、同一シラバスを複数教員が担当する場合の評価基準すり合わせや、授業評価アンケートの回答率向上策を検討する。さらに、ファカルティ/スタッフ・デベロップメントの全学的方針を確立さ

せ教育力を強化していくとともに、IR データ（学生データや全国調査結果等）を活用し、PDCA サイクルによる教育の質の継続的向上を図る。

3. 学修成果の発現状況の確認

- 各科目のシラバスに記載された評価方法・基準に基づく成績（達成度）評価については適正に行われている。特に卒業論文については 2023 年度に「到達度評価表」を導入し、評価のクライテリアを明らかにする取組みを開始し、その評価の妥当性を向上させた。また、主として SR 科目で構成される「国際技術者育成プログラム」について、24 年度は 24 名が修了した（2023 年度は 13 名）。
- 次年度以降は、成績（到達度）評価の適正性のエビデンスの確保や卒論の「到達度評価表」の導入効果の検証など、教員の負担や事務的な効率性を考慮しながら、到達度評価の運用改善を図る。また、学修成果の確認（可視化）・評価方法についても検討を進める。

4. 教育の内部質保証の充実

- 文科省等のガイドラインに基づく内部質保証活動については、特に、国際技術者育成プログラムに関する PDCA サイクルの適用を意識した改善活動を行った。大学の教育研究等の活動全体を対象とする内部質保証について、2024 年度の認証評価で内部質保証の充実が望まれると指摘されたことを受け、体制の再整備・構築に着手した。
- 次年度は、学長主導の下で全学的な教学マネジメント体制構築を具現化し、文科省の政策等を踏まえた教育の内部質保証を推進するとともに、教員間の意識喚起や責任共有を図る。